

令和6年度 第1学期始業式 講話

令和6年度が幕を開け、本日、第1学期の始業式を迎えました。それぞれが進級し、これを機に新たな目標を据えて日々取り組んでいこうと決意を新たにしていることと察します。

新学期を迎えるに当たり、先日職員会議を行いました。その中で、生徒会がグラウンドの除草作業を部活動単位で輪番制により担うことを提案した旨を耳にし、大変嬉しく思いました。引き続き、こうした個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であるウェルビーイングの実現に向け、様々な主体的な取組が展開されることを期待しています。

さらに、こうした活動を通して、自己の在り方や社会のあるべき姿に目を向け、新たな目標や自身の到達点を見据えるとともに、主権者としての意識を高めていくことにも繋がるものと考えます。

ここで、皆さんは1年生で歴史総合を履修していますので、今からちょうど百年前の我が国の動向を振り返ってみたいと思います。

百年前といえは西暦1924年ですが、この頃、我が国ではどのような風潮がみられたのでしょうか。それは、大正デモクラシーと呼ばれ、一部の藩出身者による藩閥政治を批判し、民主主義や自由主義を求める運動が広がったことです。その結果、1924年の第二次護憲運動を経て、翌1925年にはいわゆる普通選挙法が制定されました。女性への参政権の付与は更に20年後のことになりますが、この当時の人々の努力により、主体的に社会に関わる機会と権限が与えられるようになった経緯を確認した上で、社会に参画していく意義を再認識して欲しいと考えます。

また、日本で大正デモクラシーの風潮が広がった頃、アメリカ合衆国のニューヨークにおいては、ある交通手段が急速に普及しました。それは、自動車です。1900年頃のニューヨークでは、市街に馬車が行き交い、毎日2,000トン弱の馬糞に埋められ、バクテリアを運ぶ塵といっしょになった空気により汚染が広がっていましたが、1920年代に自動車が馬にとって代わると、結核発生率が激減したと言われます。このように、持続可能な社会を創るために、課題を見出し、その解決に向けた手立てを考察し、実現していく探究的な手立てが歴史上においても行われたことに対して、目を注いでおきたいところです。

本年度も、地域社会が抱える課題に向かいながら、その解決に向けて必要な知識や技能を日々の授業をとおして身に付け、「更に一步前に」向かう姿勢を培い、自ら主体的に学習を進めていくことを願っています。

いわゆる「勉強」という語の「勉」の字は、「つとめる」と読むことができます。目標を達成するためには、継続して努力することは欠かせませんが、「強いられた」ものではなく、その過程を自ら大切なものにしていく「勉楽」を意識して取り組むことを期待します。

最後に、本日の午後は入学式が挙行され、新入生を迎えます。式典はもちろんですが、普段の学校生活においても、よき伝統や習慣が引き継がれるよう、適切な対応を期待しています。また、本年度から全学年が同一の学習指導要領に基づいて教育課程が編成されることから、後輩から学習を進める上での助言等を求められるかも知れません。是非、時間が許す限り、他の学年との交流も大切にしてください。